

2021 年9月 24 日

東京センチュリー株式会社向けサステナビリティ・リンク・ローンへの融資

～太陽光発電事業の推進や途上国への低炭素技術提供を通じた低炭素社会の実現を後押し～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、東京センチュリー株式会社(代表取締役社長:野上 誠、以下「東京センチュリー」)を借入人とするサステナビリティ・リンク・ローン¹に、コ・アレンジャー(副幹事)として 50 億円の融資を行いましたのでお知らせします。

サステナビリティ・リンク・ローンは、事前に設定されたサステナビリティ・パフォーマンス目標(以下、「SPTs」)の達成状況によって金利が変動する仕組みとなっており、借入企業の取組み・行動変容を後押しすることで、環境・社会面において持続可能な経済活動を促進・支援することを目指す金融商品です。

東京センチュリーは、情報通信機器をはじめとしたリース事業等の金融サービスを提供する企業です。「事業の成長に挑戦するお客さまとともに、環境に配慮した循環型経済社会の実現に貢献する」という経営理念の下、サステナビリティ経営を推進しており、京セラ株式会社との共同出資による太陽光発電事業会社の設立・運営や、途上国に対する低炭素技術の普及等を行う二国間クレジット制度(JCM)²の代表事業者を務めるなど、低炭素社会実現への貢献や社会インフラ整備に向けた取組み等を積極的に行っています。

本件では、太陽光発電事業の年間発電量や CO2削減貢献量、二国間クレジット制度(JCM)を通じた温室効果ガス(GHG)削減目標の達成といった気候変動対応をはじめとした3つの SPTs を設定しており、これらの目標の達成状況に応じて金利が変動する仕組みとなっています。

当社は本融資が、東京センチュリーにおけるサステナビリティ取組みの更なる推進の動機付けとなり、持続可能な社会の実現に向けた取組みの後押しとなることを期待しています。今後も引き続き、運用手法の高度化・多様化によって資産運用収益の向上を図るとともに、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、ESG 投資に積極的に取り組んでいきます。

【案件概要】

借入人	東京センチュリー株式会社
組成額	225 億円
期間	5年
アレンジャー	株式会社みずほ銀行
サステナビリティ・パフォーマンス目標(SPTs)	1. 京セラ TCL ソーラー合同会社 ³ の太陽光発電事業による年間発電量および CO2削減貢献量目標の達成 2. 二国間クレジット制度(JCM)の想定 GHG 削減貢献量(累計)目標の達成 3. DX 認定(経済産業省) ⁴ の維持

¹ 本融資は、株式会社日本格付研究所(JCR)から、サステナビリティ・リンク・ローン原則との整合性等について第三者意見を取得しています。

² 途上国において低炭素技術などを活用して CO2を削減した場合、削減された CO2の一部を日本の排出削減量として計上できる制度です。現在、日本はタイやインドネシア、フィリピンなど 17 カ国をパートナーとして、この制度を構築しています。

³ 京セラ TCL ソーラー合同会社は、東京センチュリーと京セラ株式会社によって 2012 年に設立された太陽光発電事業を展開する会社です。2012 年8月の設立以来、全国 80 カ所以上で太陽光発電所を稼働、運営しています。

⁴ DX 認定制度とは、「情報処理の促進に関する法律」に基づき、「デジタルガバナンス・コード」の基本的事項に対応する企業を経済産業省が認定する制度です。